



# 2022年3月期決算 2023年3月期業績予想 中期経営計画の進捗

オリエンタル白石株式会社  
(プライム市場 1786)

2022年5月24日  
代表取締役社長 大野 達也

# Agenda

- I 2022年3月期連結業績概要
- II 2023年3月期連結業績予想
- III 中期経営計画（2020-2022）の進捗



# I 2022年3月期連結業績概要

※ 中期経営計画（2020-2022）2年目

(注)

オリエンタル白石株式会社（当社）は2021年4月1日、当社の完全親会社であるOSJBホールディングス株式会社（同社）を吸収合併し、OSJBホールディングスの連結財務諸表を引き継いでいます。前期と比較を行っている項目については同社の2021年3月期との比較、また前期末と比較を行っている項目については同社の2021年3月期末との比較しています。

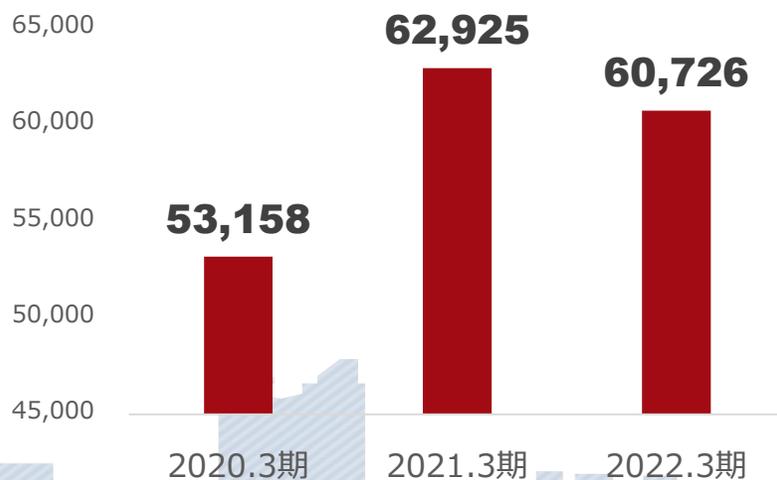


# 売上と損益

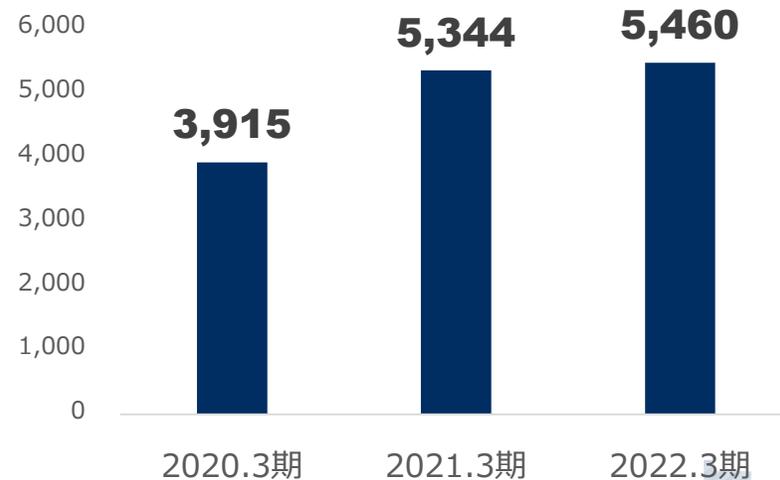
単位   百万円	2020年3月期		2021年3月期		2022年3月期		主な増減要因
	実績	前期比 増減率   %	実績	前期比 増減率   %	実績	前期比 増減率   %	
売上高	53,158	5.6	62,925	18.4	60,726	△3.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>北陸新幹線工事の終了、ニューマチックケーソン工事等の期ずれにより減収</li> <li>一方、大規模更新などの補修補強工事の売上増、山木工業の売上加算</li> <li>OSJB 発足以来8年間で、2021年3月期に続く2番目の売上高</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>オリエンタル白石: 繰越工事において利益を確保</li> <li>日本橋梁: 設計変更等による利益改善</li> <li>山木工業: 利益を当該期より加算</li> <li>OSJB 発足以来、最高の営業利益、経常利益を確保</li> </ul>
売上総利益	8,019	△1.4	9,762	21.7	10,392	6.5	
営業利益	3,785	△8.1	5,239	38.4	5,308	1.3	
経常利益	3,915	△6.4	5,344	36.5	5,460	2.2	
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,828	111.6	3,943	△42.2	3,778	△4.2	

単位 | 百万円

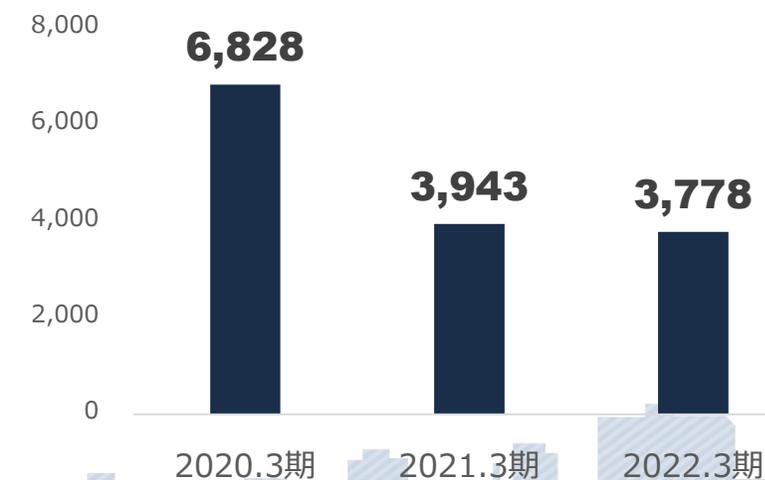
## 売上高



## 経常利益



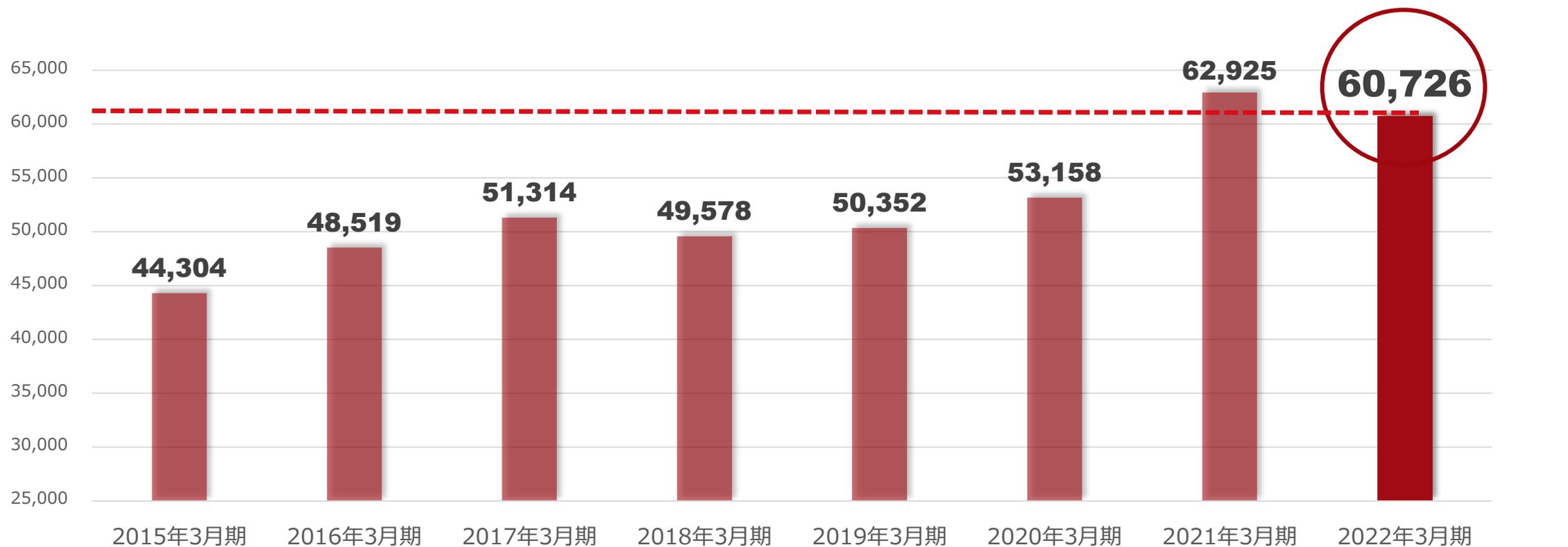
## 当期純利益



# 売上高の推移

単位 | 百万円

OSJB HD発足以来2021年3月期に続く高い売上



OSJB HD  
発足

オリエンタル白石グループ発足  
山木工業参画

中期経営計画2017-2019  
~『らしさ』で築きあげる 安定と成長~

中期経営計画2020-2022  
~グループの『安定と成長』を止めない~

# 経常利益の推移

単位 | 百万円



OSJB HD発足以来経常利益最高額

OSJB HD  
発足

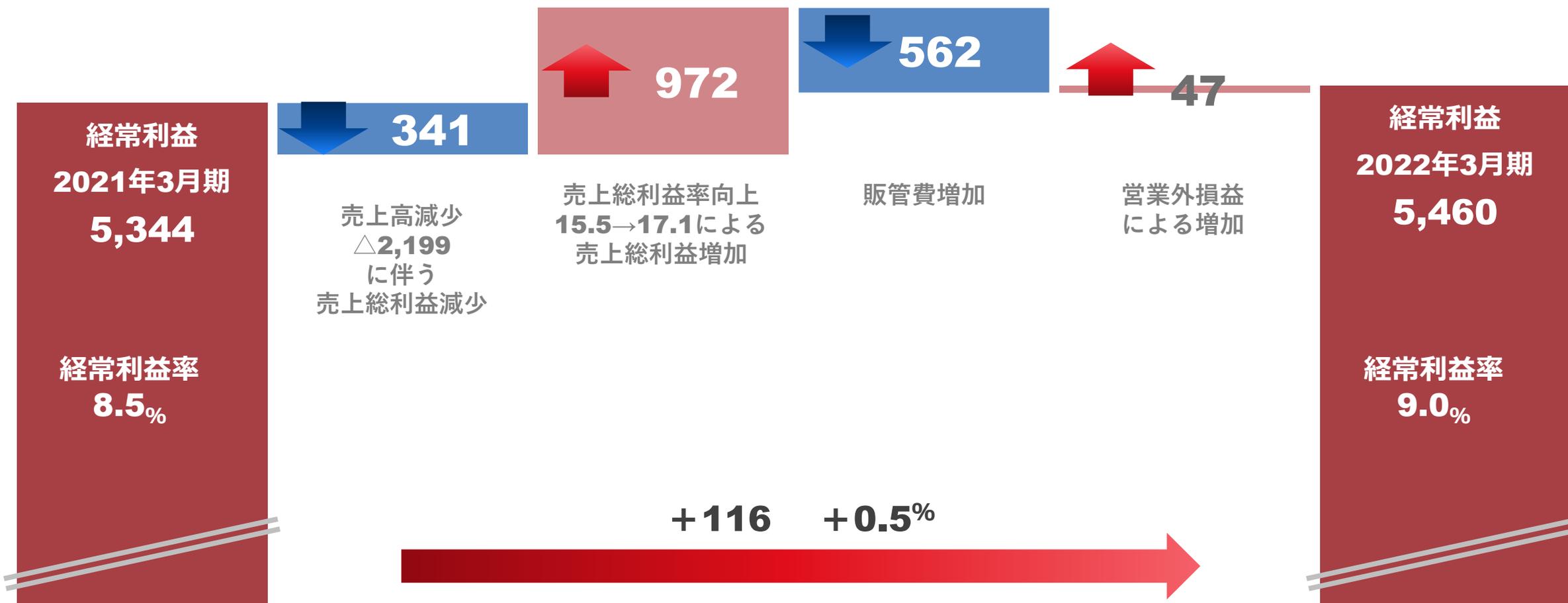
中期経営計画2017-2019  
～『らしさ』で築きあげる 安定と成長～

中期経営計画2020-2022  
～グループの『安定と成長』を止めない～

オリエンタル白石グループ発足  
山木工業参画

# 損益状況 | 経常利益増減要因分析 (前期比)

単位 | 百万円



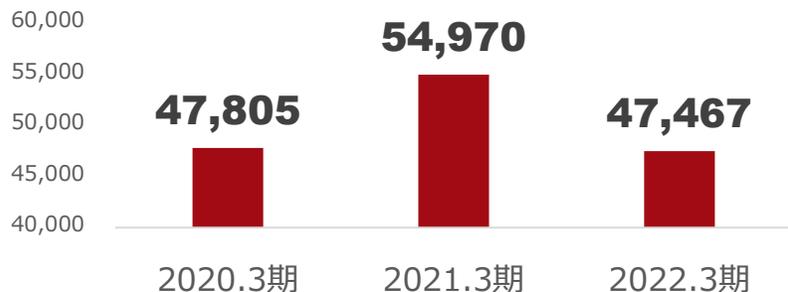
## 事業別の概況 | 建設事業

### 業績推移

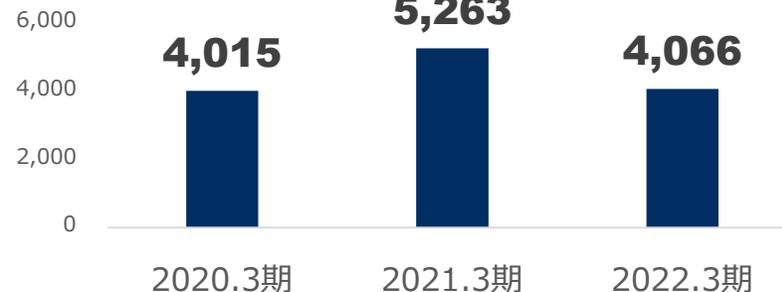
- ニューマチックケーソンなどの予定案件の期ズレや受注時期の遅れはあったものの、大規模更新等、補修補強工事は順調に売上げ
- 大規模更新や橋梁の耐震補強工事を中心に、橋梁上下部一式工事、橋梁基礎や地下貯水設備といったニューマチックケーソン工事等、当社が強みを持つ事業で利益を確保
- 当社が得意とする建設需要は底堅く推移し、前期、前々期より額は減ったものの、それぞれのセグメントで収益性の高い案件を受注
- 中期経営計画最終年度(2023年3月期)に向けて十分な受注残を確保

単位 | 百万円

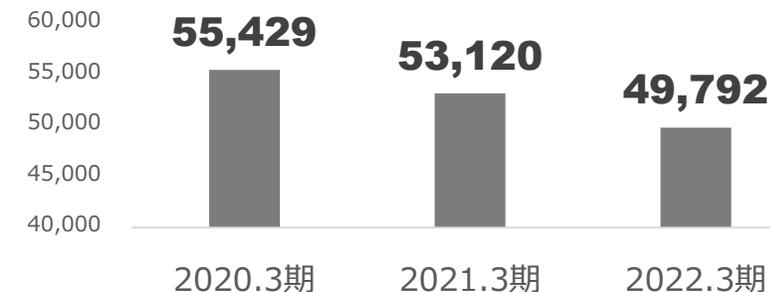
売上高



営業利益



受注高



主な受注工事		発注者	工事名称
建設事業	コンクリートの新設工事	大阪モノレール株式会社	大阪モノレール PC軌道桁製作・架設工事
	ニューマチックケーソン工事	国土交通省中部地方整備局	247号西知多道路荒尾ランプOFFランプ橋下部工事
	橋梁の補修補強工事	中日本高速道路株式会社	西湘バイパス(特定更新等)萬丈橋塩害対策工事

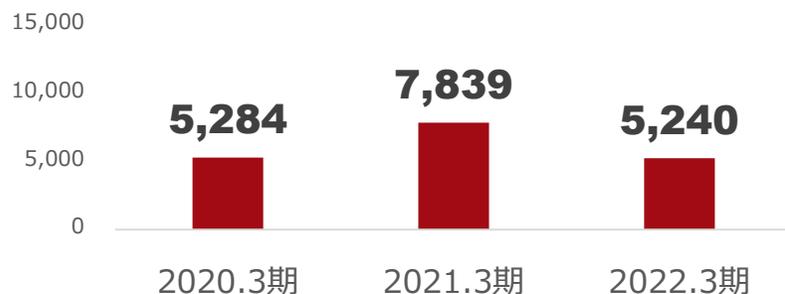
## 事業別の概況 | 鋼構造物事業

### 業績推移

- 新設橋梁の売上は低調だったものの、大規模更新工事が順調に推移し、一定の売上は確保
- 大規模更新工事の採算性向上と設計変更による利益改善でOSJB発足以来、最高の営業利益を確保
- 新設鋼橋の「エンジニアリング化」を推進する中での補修補強工事の受注により、OSJB発足以降、鋼構造物事業として最高の受注額となった
- IH式塗膜剥離事業、JB-HABIS（高耐食鋼検査路）など新規分野への取組強化

単位 | 百万円

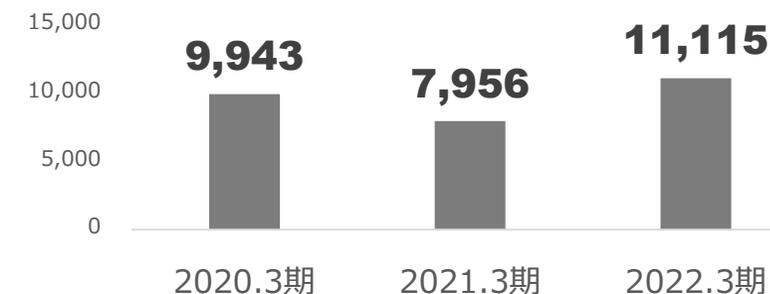
売上高



営業利益



受注高



主な受注工事		発注者	工事名称
鋼構造物事業	鋼構造の新設橋梁工事	国土交通省中国地方整備局	三隅・益田道路馬橋高架橋鋼上部工事
	橋梁の補修補強工事	中日本高速道路株式会社	東名高速道路(特定更新等)薊塚第一橋他2橋鋼橋補強工事

## 事業別の概況 | 港湾事業

### 業績推移

- M & Aにより、2022年3月期より連結に売上を計上
- 会計基準の変更に加え、決算期変更に伴う13ヶ月決算を実施したことによる売上増加
- 売上増に加えて、竣工した小名浜東港の整備事業の大規模工事で設計変更の確保、原価低減により利益増加
- 小名浜港の大規模工事が竣工し、プロジェクトの谷間の時期になるものの、河川改修工事、浚渫工事を中心に受注を確保



主な受注工事		発注者	工事名称
湾岸事業	湾岸工事	国土交通省東北地方整備局	小名浜港ケーソンヤード斜路整備工事
	湾岸工事	福島県小名浜港湾事務所	漁港（補助）工事（消波工）

## 財務状況

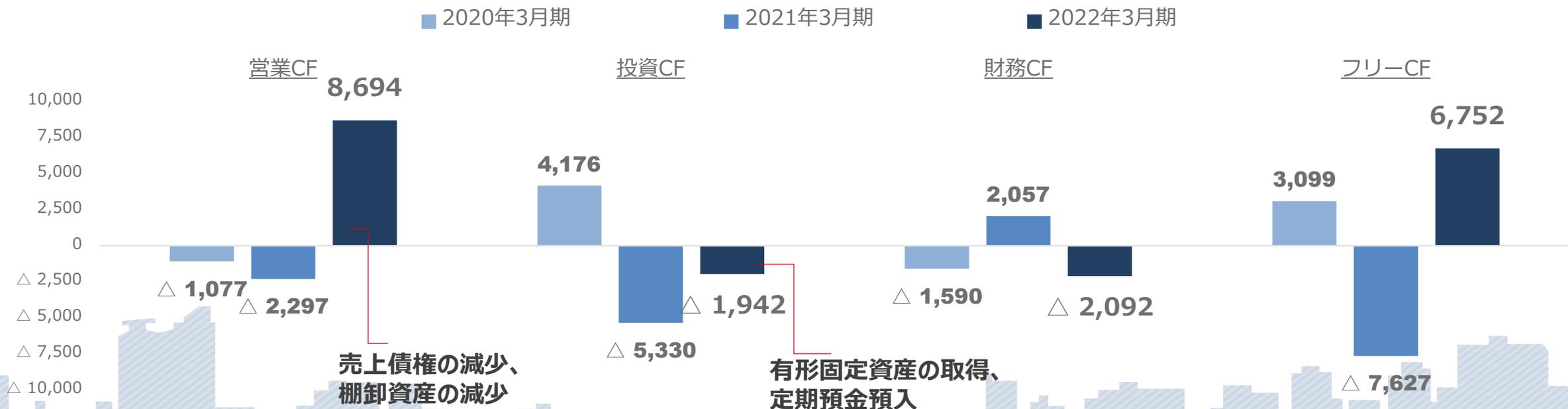
単位   百万円	2020年 3月期末	2021年 3月期末	2022年 3月期末	前期末比		主な増減要因
				増減額	増減率   %	
流動資産	41,667	47,106	45,645	△1,461	△3.1	現金及び預金 5,345 受取手形・完成工事未収入金 △4,258 未成工事支出金 △2,719
固定資産	10,505	16,062	15,306	△756	△4.7	のれん △141 繰延税金資産 △284
<b>資産合計</b>	52,173	63,169	<b>60,952</b>	<b>△2,217</b>	<b>△3.5</b>	
流動負債	14,486	19,627	15,901	△3,726	△19.0	支払手形・工事未払金 △1,306 未払法人税等 △1,334 未成工事受入金 △1,950
固定負債	4,367	7,158	6,060	△1,098	△15.3	長期借入金 △825 繰延税金負債 △319
<b>負債合計</b>	18,854	26,785	<b>21,962</b>	<b>△4,823</b>	<b>△18.0</b>	
純資産合計	33,318	36,383	<b>38,989</b>	<b>2,606</b>	<b>7.2</b>	
<b>負債・純資産合計</b>	52,173	63,169	<b>60,952</b>	<b>△2,217</b>	<b>△3.5</b>	
<b>自己資本比率</b>	63.9	57.6	<b>64.0</b>	<b>6.4pt</b>	-	

\* 2021年3月期末について、2021年2月19日の山木工業ホールディングス株式会社との企業結合の暫定的な会計処理の確定による見直し後の金額を使用

# キャッシュ・フローの推移

単位   百万円	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期
営業CF	△1,077	△2,297	8,694
投資CF	4,176	△5,330	△1,942
財務CF	△1,590	2,057	△2,092
フリーCF*	3,099	△7,627	6,752

\*フリーキャッシュフロー = 営業キャッシュフロー + 投資キャッシュフロー



# Ⅱ 2023年3月期連結業績予想

※ 中期経営計画（2020-2022）3年目



## 事業環境

1

### 建設業を取り巻く事業環境

- 住宅着工や公共投資が落ち込むものの、工場やオフィスなどへの設備投資は回復基調にあり、2022年度の建設投資額の見通しは、前年度比0.5%増の61兆9800億円となっている
- 政府建設投資は前年度比1.9%減の22兆9800億円、微減するものの、防災、減災、国土強靱化やインフラ老朽化対策などの事業は継続していく
- 「防災、減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」(5年間で15兆円の投資)で今後も公共投資は堅調と予想される

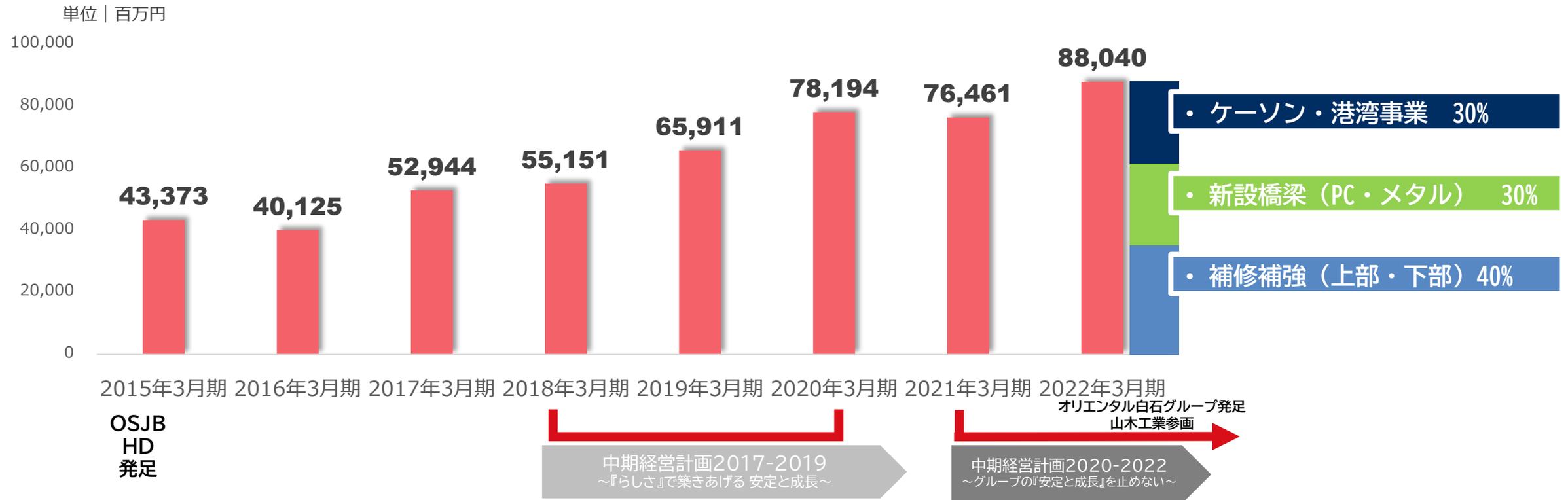
2

### 当社グループ事業に関連する事業環境

- 高規格道路のミッシングリンク解消及び4車線化、高速道路等の6車線化等において、当社グループの新設橋梁(PC橋、鋼橋)の設計・施工力をもって活躍
- 事業が加速する中で、大型化、多様化しつつある高速道路の大規模更新事業において、床版取替、耐震補強、脱塩などの当社開発工法を駆使
- 激甚化、頻発化する台風、洪水、高潮、津波、土砂災害等の防災・減災において、ニューマチックケーソン工法、港湾・河川工事技術で貢献

## 事業環境

### グループ全体の受注残の推移



- OSJB HD発足以来、最多の受注残（880億円）
- 大規模更新などの補修補強工事、ニューマチックケーソンなど当社が強みを持ち、採算性の高い受注残が多い
- 将来的に追加契約が確実な『潜在的な受注残』を有する

## 事業計画 | 特筆すべき受注工事



松島高架橋

発注者	西日本高速道路（株）
発注額	5,396,500,000（JV当社持分55%）
工期	2020.8.26～2022.7.16
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の予想を含めトータルの事業量はかなりの大規模化が予想される大型補修補強工事</li> <li>・当社の開発した橋梁架替工法であるSCBR工法を全面的に採用</li> <li>・交通規制材に、当社開発のハイブリッドスリムガードを採用</li> </ul>	



大阪モノレール

発注者	大阪モノレール（株）
発注額	16,950,000,000（JV当社持分35%）
工期	2021.9.21～2028.7.16
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪モノレールの延伸工事（門真市駅～瓜生堂駅）</li> <li>・製作ヤードを新設し、高い精度で軌道桁を製作、架設する工事</li> <li>・国内外で培った当社のモノレール製作、架設の技術を発揮</li> </ul>	

## 事業計画 | 特筆すべき受注工事

城北公園ケーソン



発注者	戸田建設（東京都建設局）
発注額	4,192,500,000
工期	2019.7.1～2023.3.31
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・治水対策で地下に雨水を一時的に貯留する施設の建設にニューマチックケーソン工法を採用</li> <li>・2基の大型函体を同時に沈設する難工事に当社の得意とする自動計測や掘削管理にて対応</li> </ul>

小名浜港ケーソンヤード斜路設置工事



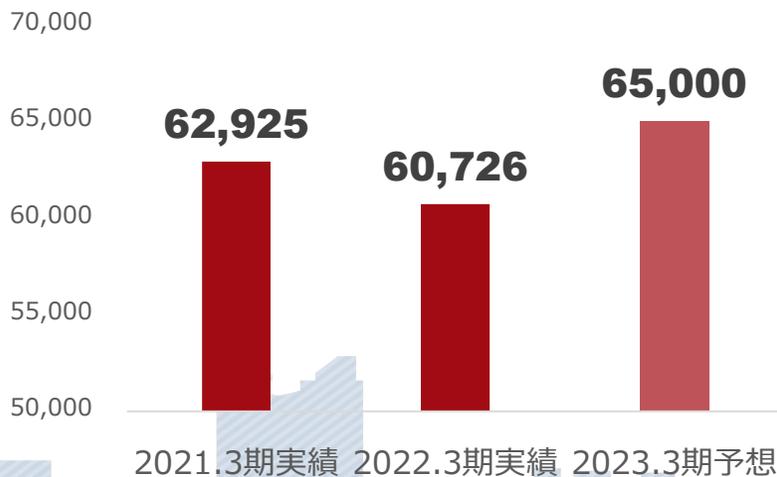
発注者	国交省 東北地方整備局
発注額	113,500,000
工期	2021.8.10～2022.7.31
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小名浜港沖の防波堤のケーソン製作ヤードのオープンケーソンを海面に下ろすための斜路整備工事を施工</li> <li>・今後控えている小名浜港東地区の整備事業プロジェクトに向け実績と信頼を築く</li> </ul>

# 業績予想

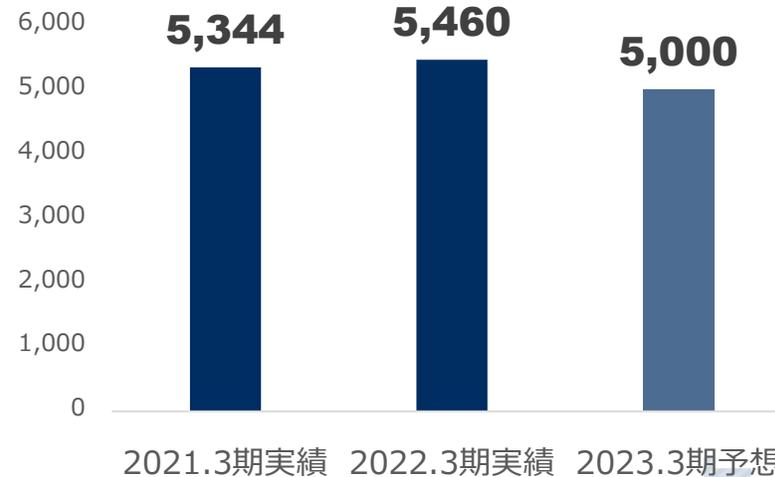
単位   百万円	2021年3月期		2022年3月期		2023年3月期		主な増減要因
	実績	前期比増減率   %	実績	前期比増減率   %	予想	前期比増減率   %	
売上高	62,925	18.4	60,726	△3.5	65,000	7.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>OSJB 発足以来、最高の売上を予想</li> <li>コロナウイルスや材料・燃料が高騰するリスクを加味しつつも、補修補強工事やニューマチックケーソンなど主力事業の収益力が高く営業利益、経常利益とも3期連続で 50 億円を上回ると予想</li> </ul>
営業利益	5,239	38.4	5,308	1.3	5,000	△5.8	
経常利益	5,344	36.5	5,460	2.2	5,000	△8.4	
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,943	△42.2	3,778	△4.2	3,300	△12.7	
一株当たり 年間配当   円	8.00	据え置き	11.00	3.00	11.0	据え置き	

単位 | 百万円

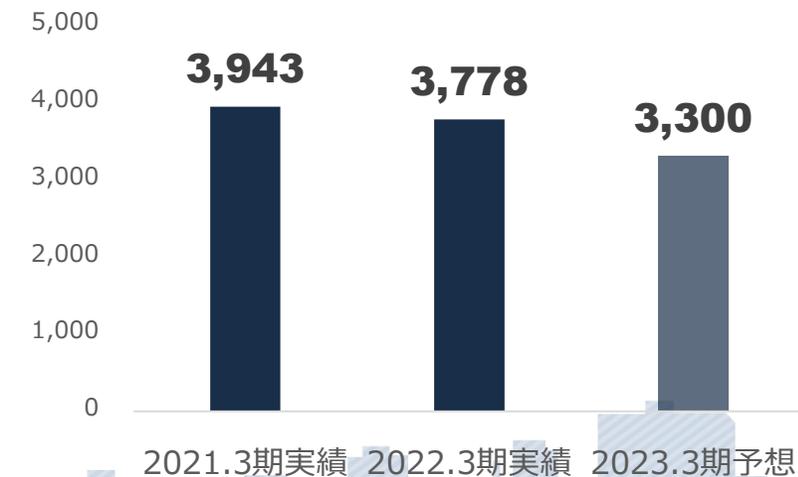
売上高



経常利益



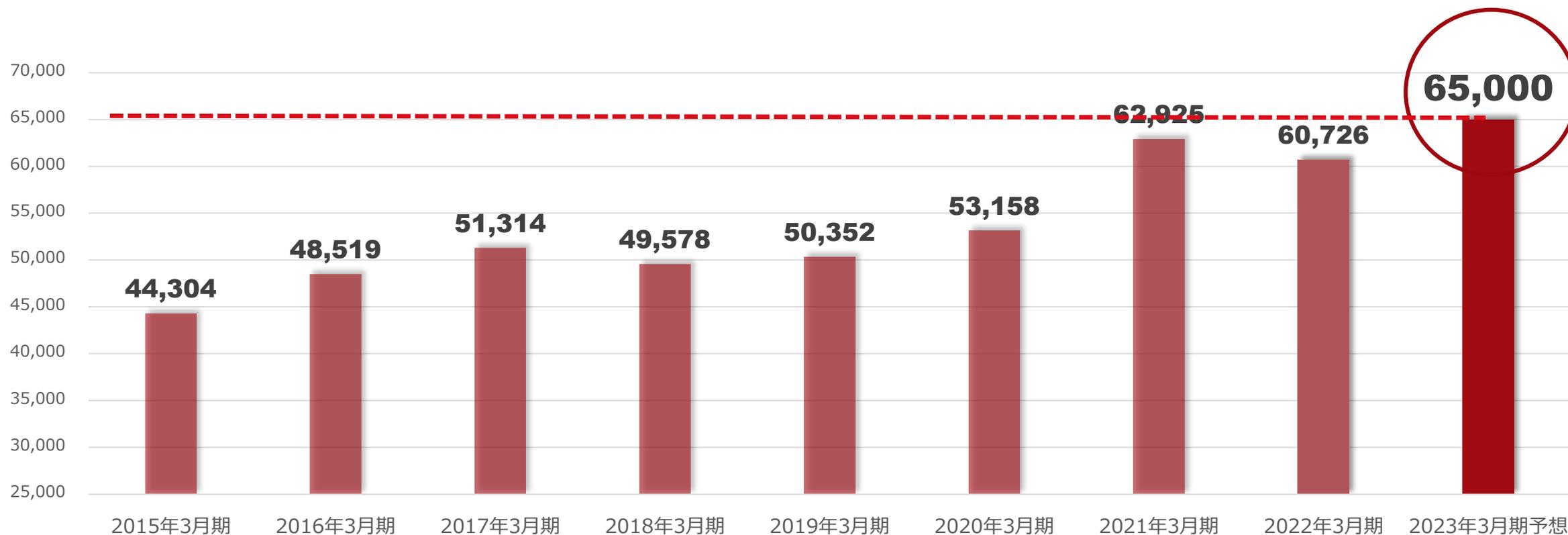
当期純利益



# 売上高の推移

単位 | 百万円

OSJB HD発足以来、最高売上を予想



OSJB HD  
発足

オリエンタル白石グループ発足  
山木工業参画

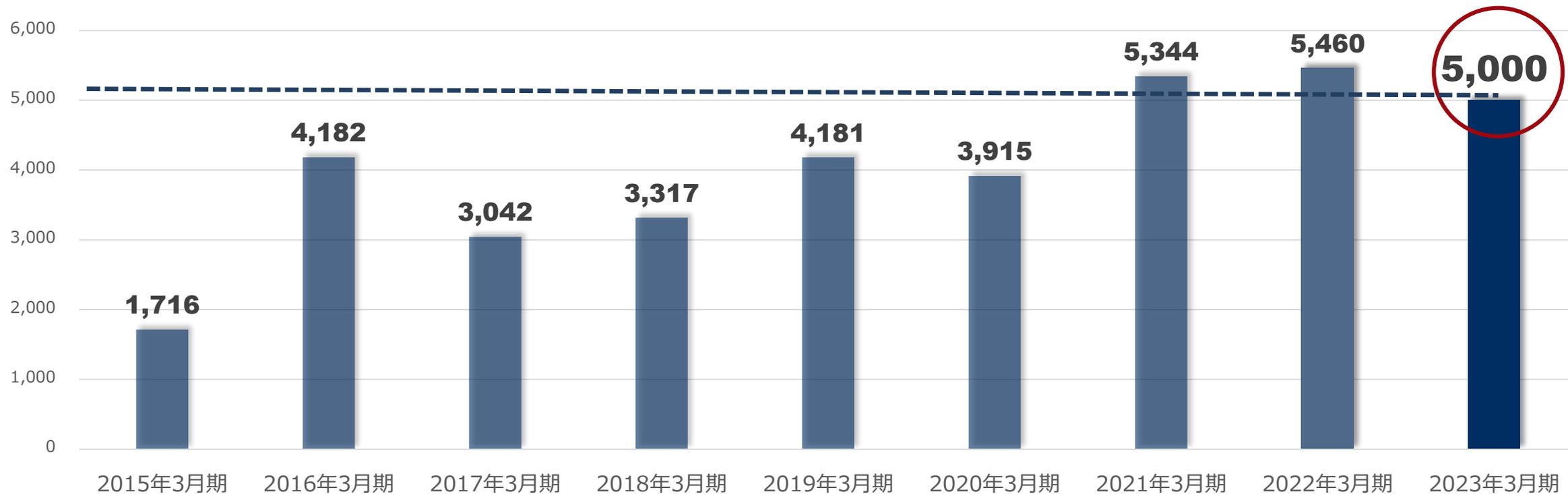
中期経営計画2017-2019  
~『らしさ』で築きあげる 安定と成長~

中期経営計画2020-2022  
~グループの『安定と成長』を止めない~

# 経常利益の推移

単位 | 百万円

中期経営計画2020-2022において3期連続で50億円超えを予想



OSJB HD  
発足

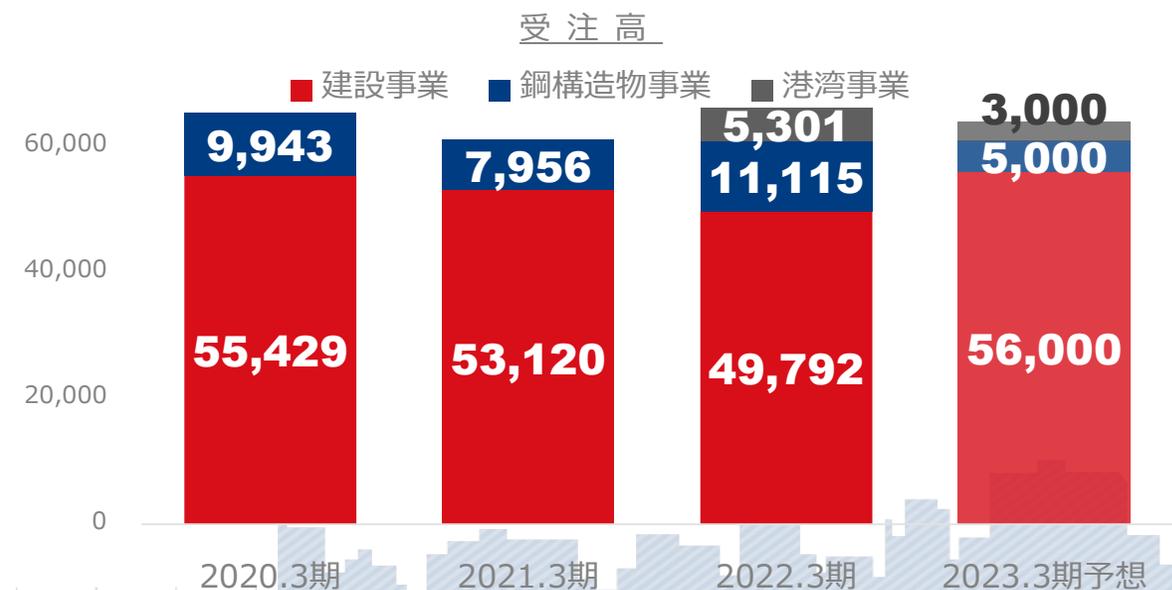
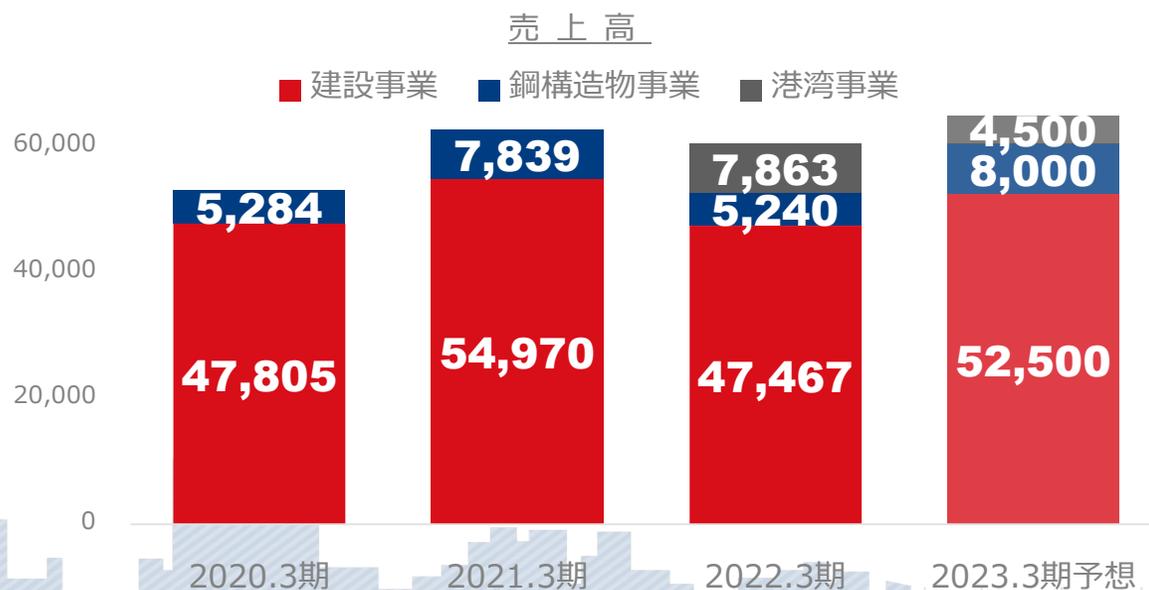
オリエンタル白石グループ発足  
山木工業参画

中期経営計画2017-2019  
～『らしさ』で築きあげる 安定と成長～

中期経営計画2020-2022  
～グループの『安定と成長』を止めない～

## 事業別業績予想

単位   百万円	2023年3月期予想				主な増減要因
	売上高		受注高		
	前期比 増減率   %	前期比 増減率   %	前期比 増減率   %	前期比 増減率   %	
建設事業	52,500	10.6%	56,000	12.5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>新設橋梁は回復、ニューマチックケーソンは増加、補修補強は高水準を維持、OSJB発足以来、建設事業として2番目の売上</li> </ul>
鋼構造物事業	8,000	52.7%	5,000	△55.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>新設橋梁は一定量を確保しながら補修補強で売り上げを伸ばす、OSJB発足以来、鋼構造物事業として最高の売上</li> </ul>
港湾事業	4,500	△43.0%	3,000	△43.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>当期はプロジェクトの谷間にあたり、中小規模の港湾・土木工事に注力</li> </ul>
合計	65,000	7.0%	64,000	△3.5	



# 株主還元

## 基本方針

株主の皆様に対する安定した利益還元を経営における最重要課題のひとつと考え、安定した利益配当を継続して実施する

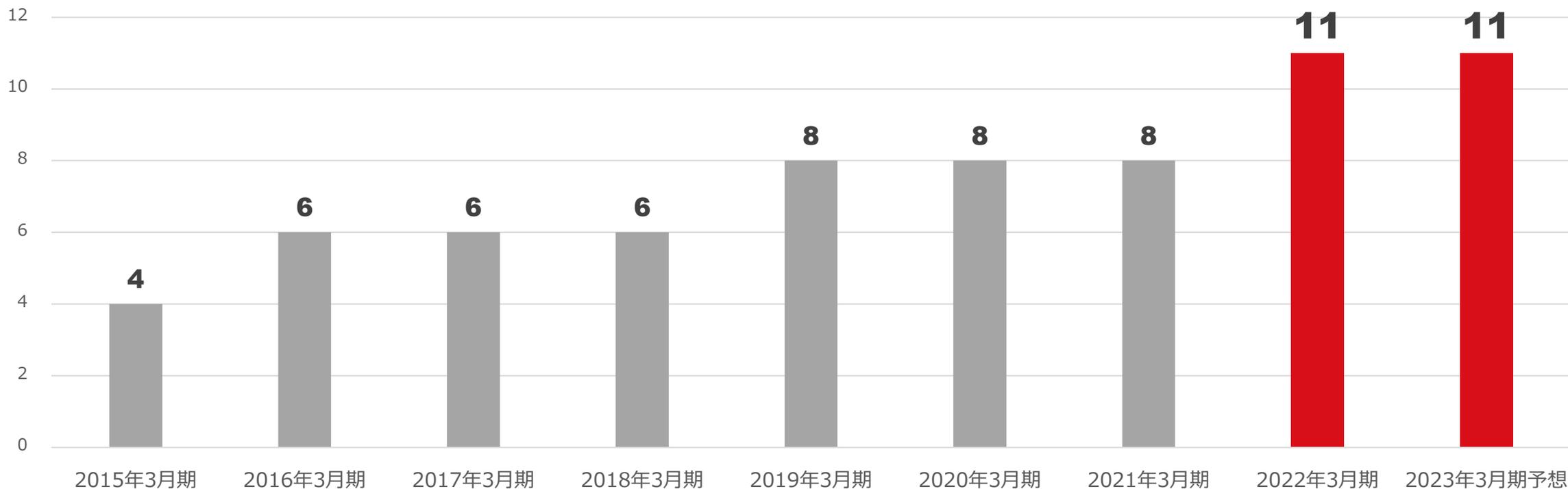
	2020年3月期 実績	2021年3月期 実績	2022年3月期 実績	2023年3月期 予想
1株当たり年間配当	8.00円	8.00円	11.00円	11.00円
配当性向	14.0%	23.9%	33.9%	39.0%
総還元性向	18.4%	31.8%	42.0%	39.0%

業績を上げていくとともに  
 中期経営計画2020-2022で目標として掲げた  
**配当性向40%程度、総還元性向40%以上**  
 を目指す

# 年間配当の推移

単位 | 円

## 今後も安定した利益還元を図る



OSJB HD  
発足

オリエンタル白石グループ発足  
山木工業参画

中期経営計画2017-2019  
～『らしさ』で築きあげる 安定と成長～

中期経営計画2020-2022  
～グループの『安定と成長』を止めない～

# Ⅲ 中期経営計画（2020-2022）の進捗



## 事業環境認識

### 社会環境

- 少子高齢化/人口減少
- デジタル技術革新
- 社会インフラ老朽化
- 激甚化する災害
- 働き方改革/ダイバーシティ
- 新型コロナウイルス感染拡大
- コーポレートガバナンス
- 環境配慮型社会等SDGs
- 上場基準見直し

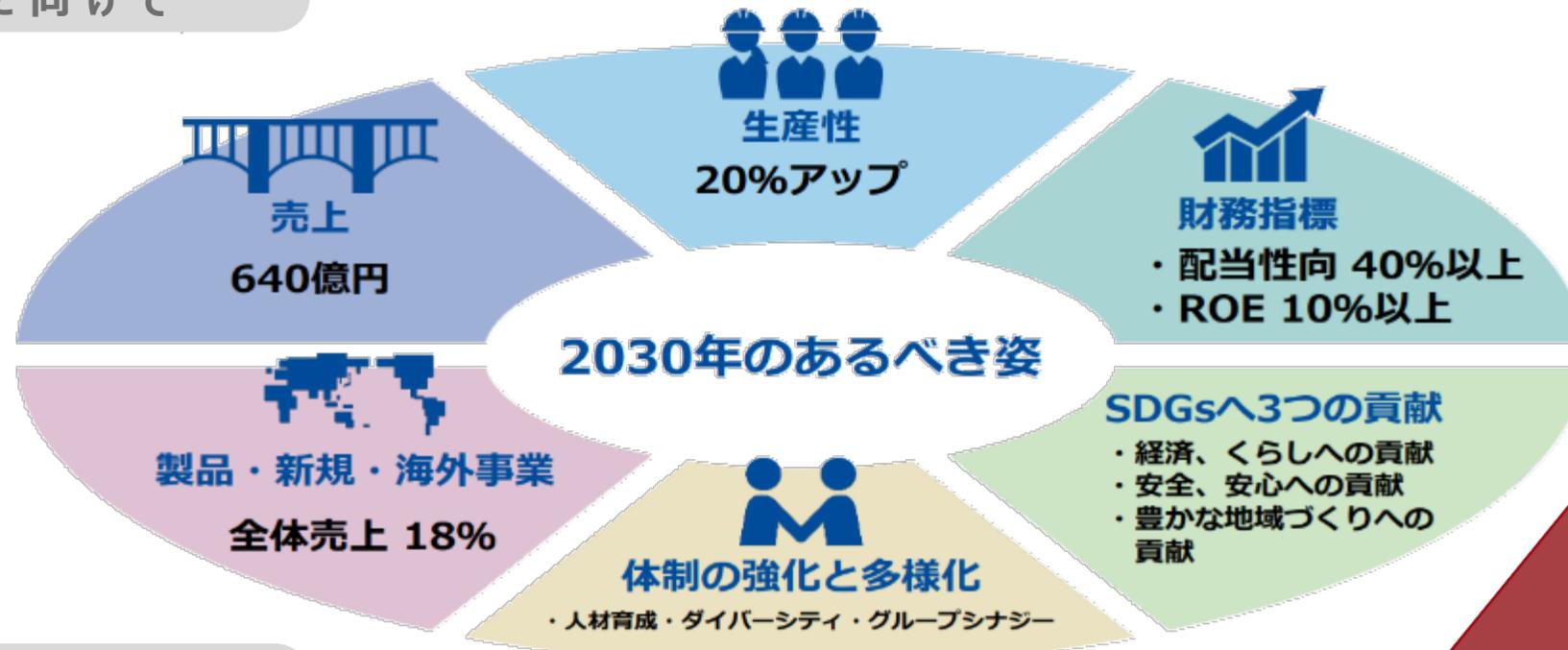
### 事業環境

- 維持更新事業の拡大
- 国土強靱化
- 地方の活性化（ストック効果とコンパクトシティ）
- 時間外労働の上制限
- 生産性向上の実現
- 品質/安全管理の充実
- 担い手不足
- 材料・燃料費の高騰
- 職員・作業員の賃上げ
- カーボンニュートラルへの対応
- 出入国管理法改正
- キャリアアップシステム本格運用
- 株主還元策/資金有効活用
- 非財務情報の充実

事業環境による淘汰を生き延び、  
事業環境によりグループをさらに強くし、  
事業環境が生むビジネスチャンスで成長する！

# 2030年のあるべき姿と中期経営計画2020-2022

2030年に向けて



2020/4～ 2023/3

「事業」「構造」「投資」「SDGs」に対する施策を進め、「2030年のあるべき姿」への礎を築く

2017/4～ 2020/3

「既存事業の収益力強化」  
「新規・新領域事業への進出」  
「研究開発の強化と戦略的投資」

**「2030年のあるべき姿」**

中期経営計画2020-2022  
～グループの『安定と成長』  
を止めない～

中期経営計画2017-2019  
～『らしさ』で築きあげる 安定と成長～

# 基本方針・骨子

## 計画の位置づけ

『2030年のあるべき姿』を実現すべく、  
グループの強みを活かした事業展開を進め、  
競争力及び企業価値の向上を図る！

## 基本方針

<p>① 課題解決 への貢献</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国土強靱化、インフラ老朽化対策、経済活性化、地方創生の課題解決への貢献</li> <li>これを企業業績の向上につなげる</li> </ul>	<p>③ 筋肉質そして フレキシブル</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人材育成を通じた体制強化とダイバーシティを推進し、筋肉質でフレキシブルな組織を目指す</li> <li>リスクマネジメント、モニタリング体制を強化、グループシナジーの発揮、BCPを実践</li> </ul>
<p>② 深める！ 広げる！</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主力事業のさらなる強化に加え、新規事業、海外事業等へ事業領域を拡充</li> <li>競争力の強化と生産性の向上に資する研究開発と戦略的投資に注力</li> </ul>	<p>④ 有形・無形の 企業価値向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安定的な配当継続を目指す</li> <li>環境事業を進めるとともに社会貢献に努める</li> </ul>

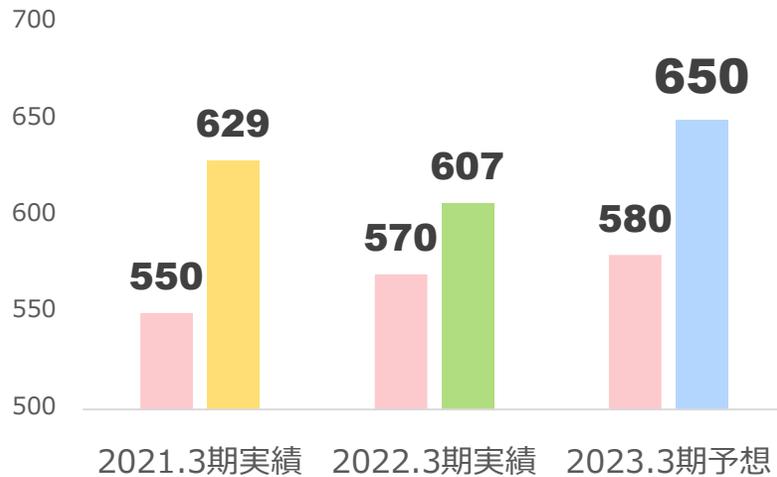
## 施策

数値目標	事業計画	構造計画	投資計画	SDGs
------	------	------	------	------

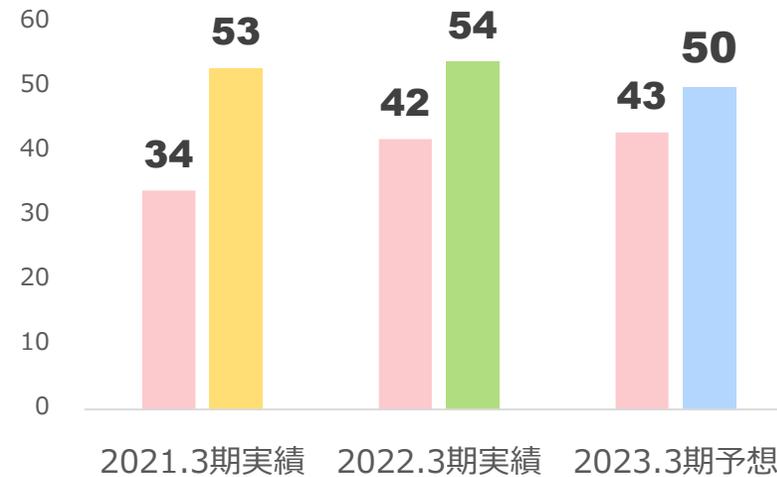
# 経営指標目標

単位 | 億円

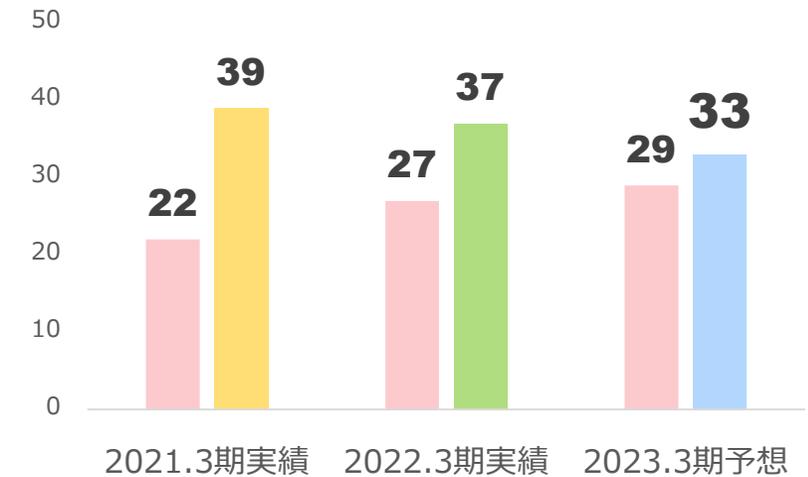
## 売上高



## 経常利益



## 当期純利益



### 中期経営計画

2030年に向けて着実に成長すべく、数値を計画

### 2021年3月期 実績

北陸新幹線等の新設橋梁や補修補強事業が増加

### 2022年3月期 実績

山木工業の売上・利益を当期より加算したものの、受注目標案件の期ずれや受注時期の遅れなどで売上は前期を下回るが、繰越工事においては高い利益率を確保

### 2023年3月期 予測

豊富な受注残をベースにOSJB発足以来最高の売上を見込む  
採算性の高い補修補強やニューマチックケーソンの工事量が増加し、利益のさらなる向上を目指す

\* 2022年3月期、2023年3月期の数値は、山木工業の数値を含む。

## 経営指標目標

	2021年3月期 実績	2022年3月期 実績	2023年3月期 予想
ROE	<b>11.3%</b>	<b>10.8%</b>	<b>8%以上</b>
配当性向	<b>23.9%</b>	<b>33.9%</b>	<b>39 %</b>
総還元性向	<b>31.8%</b>	<b>42.0%</b>	<b>39 %</b>

中期経営計画

安定的な配当継続を目指し、目標を設定

2021年3月期 実績

配当を継続し、3億円の自己株式購入を実施

2022年3月期 実績

増配（8円→11円）、かつ3億円の自己株式購入を実施

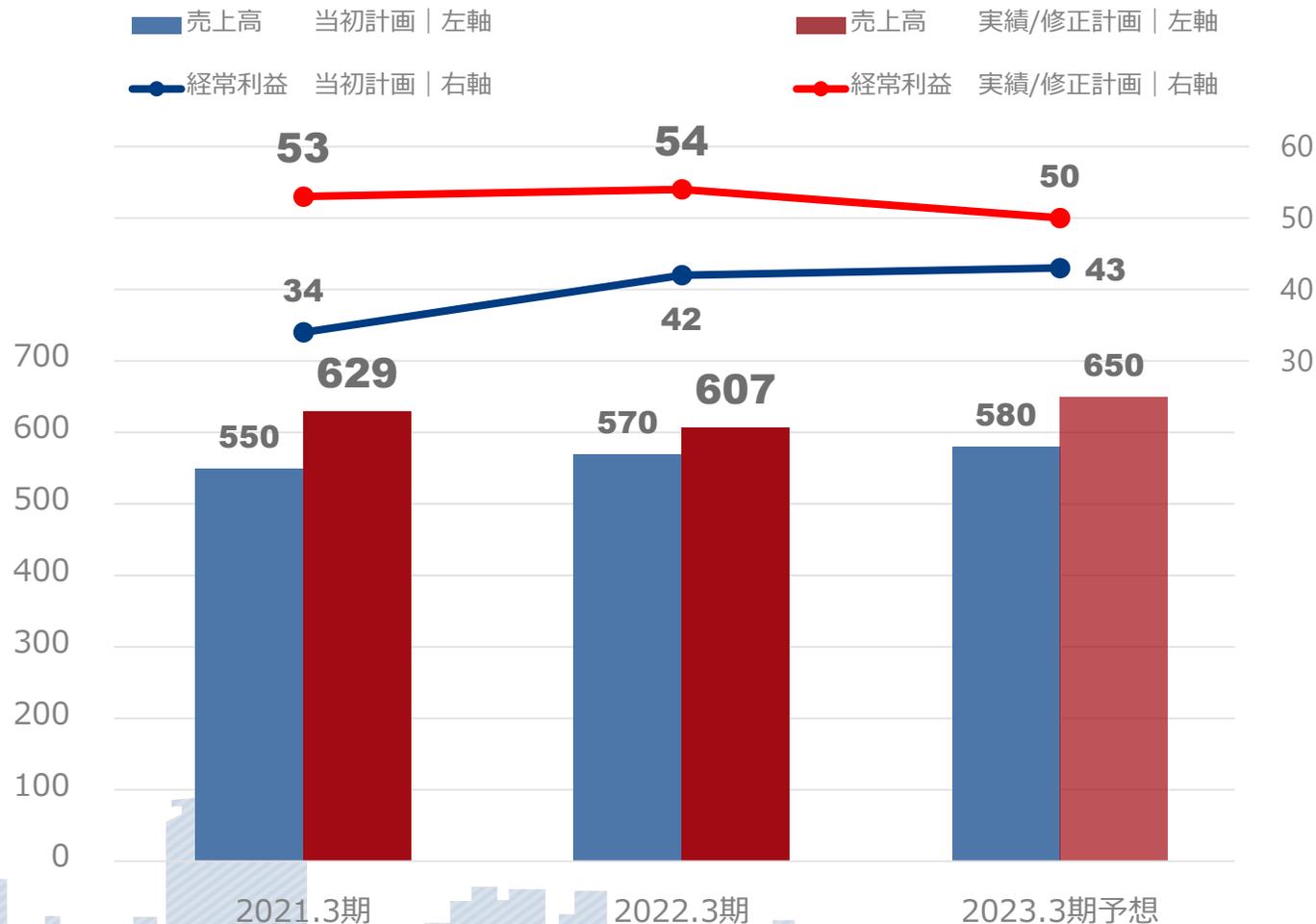
2023年3月期 予測

2022年3月期の配当を継続

# 事業計画 | 進捗

## 売上高・経常利益

単位 | 円



## 基本戦略

公入札における  
総合評価力の強化

教育の充実と多様な人材活用  
による組織強化

特化技術採用に向けた  
技術営業の推進

生産性向上と  
コスト競争力向上

競争力を高める  
研究開発・設備投資

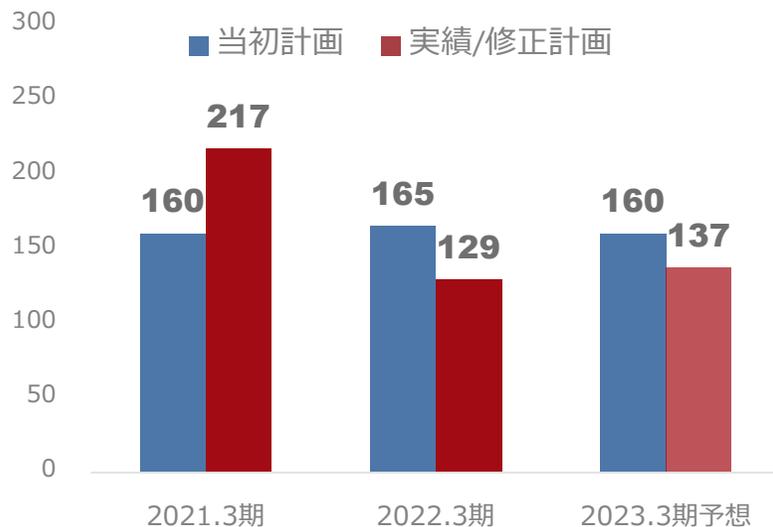
共同研究と  
同業社や異業種との連携

グループのシナジー  
(JV、共同研究、共同営業)

# 事業計画 | セグメント別売上の進捗

## 新設橋梁

- グループで持つ特化工法（SLJ、SCBR等）の新設橋梁への採用拡大
- 強みが活きる上下部一式工事への注力



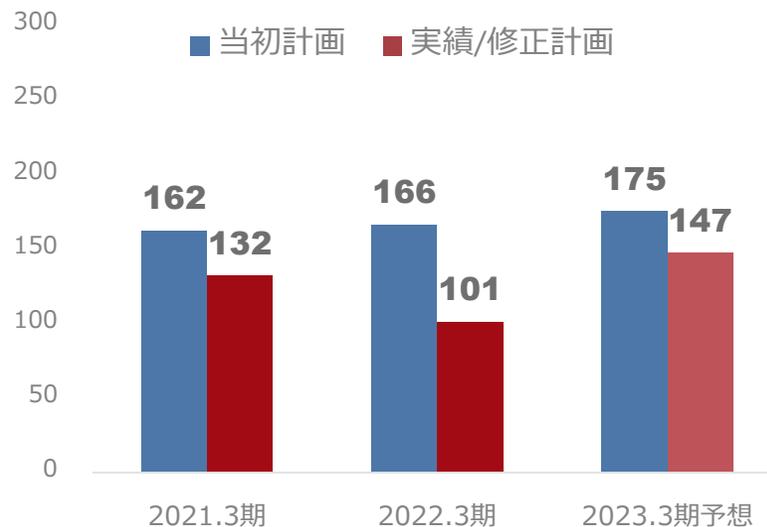
■ 北陸新幹線工事等で売上を伸ばす

■ 上下部一式工事等がピークを過ぎる

■ 大阪モノレールや6車線化等の大型工事が動き始める

## ニューマチックケーン・一般土木

- 継続的な設備投資による技術と施工能力の向上
- 技術開発による自動化と生産性向上



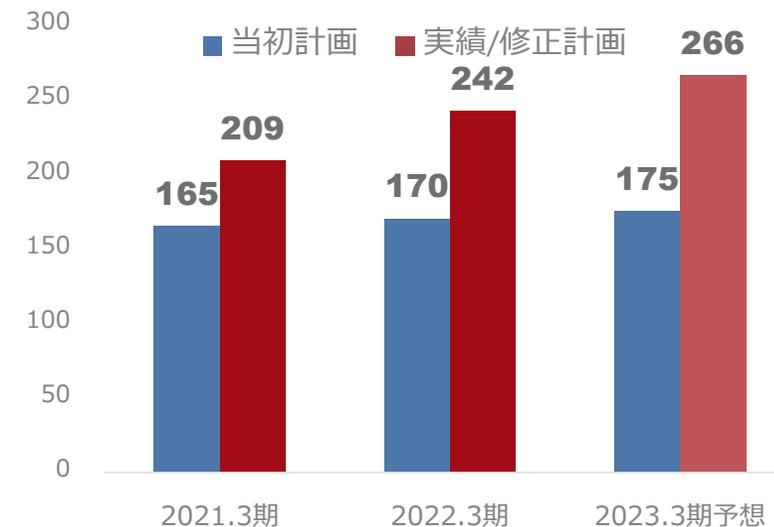
■ 大型工事数件の着工が若干遅れるも一定の売り上げは確保

■ 大型案件の期ずれや着工遅れにより売上低下

■ 一般土木工事が減少するも治水関係の大型ニューマチックケーン工事が動きだし橋脚基礎工事増加

## 補修補強

- グループで持つ特化工法の採用拡大
- コンクリートと鋼構造に対応できる総合力で受注・収益拡大



■ 好調な受注、大型の設計変更により、大幅な増収

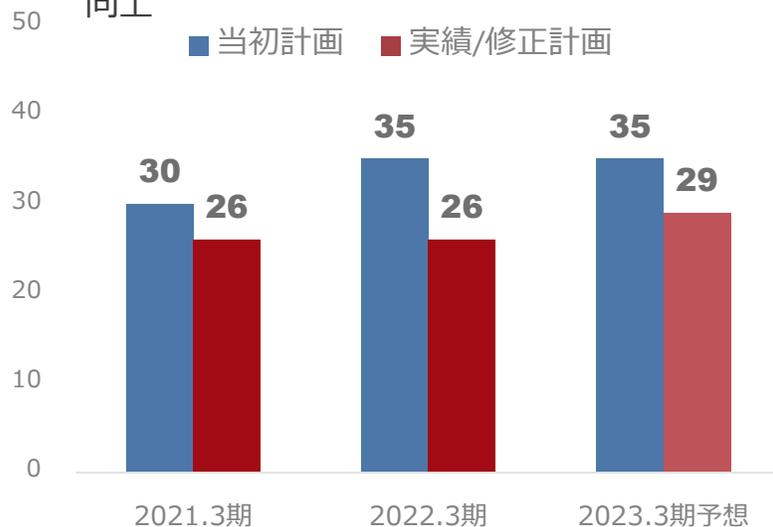
■ グループで、床版・桁の取替、耐震補強に対応し、売り上げが大幅増加

■ コンクリート構造、鋼構造に対応できる強みと特許工法を複数有する利点を活かしてさらに売上を伸ばす

## 事業計画 | セグメント別売上の進捗

### PC建築

- プレキャスト技術の開発と活用による受注・収益の拡大
- BIM等IT技術の積極的な活用による生産性の向上



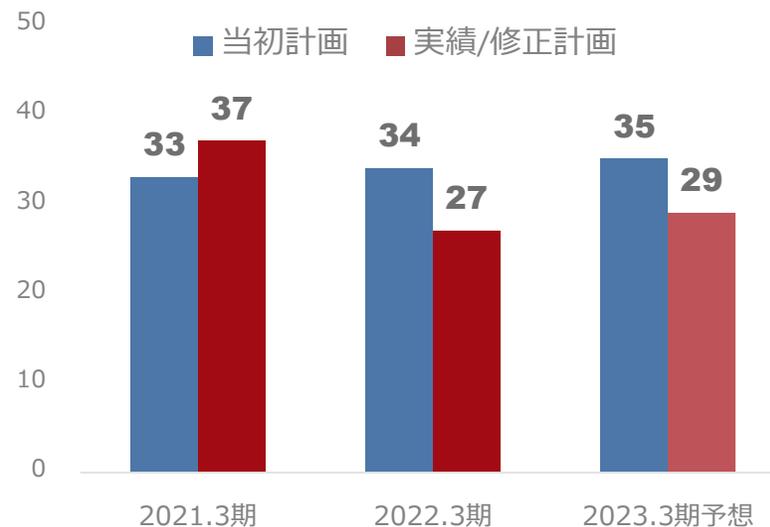
- プレキャスト件数は増加傾向にあるものの、大型工事の延期で計画未達

- 提案採用件数が伸び悩む

- プレキャスト技術の開発が進み、提案のバリエーションが増加、次期以降に期待

### 製品・新規・海外事業

- 製品販売、環境事業、周辺事業(IH式塗膜剥離工法による塗膜塗替え工事等)、不動産賃貸、海外事業等



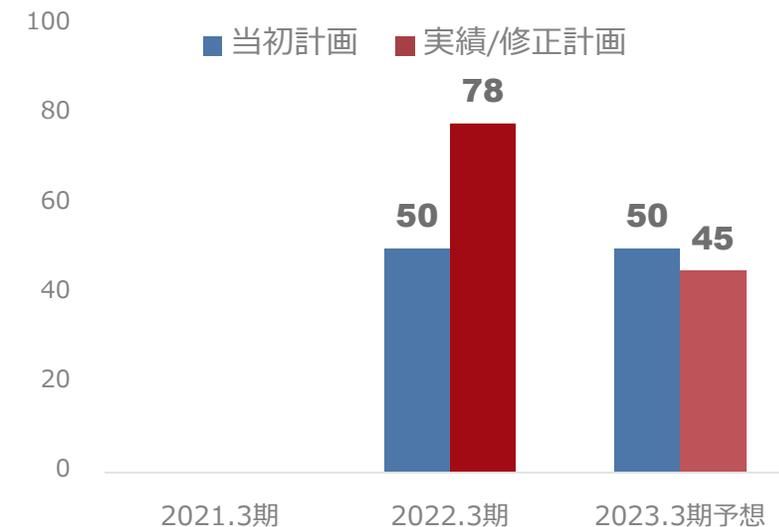
- 大型工事のコンクリート工場製品に加え、IHの周辺事業も漸増し、不動産事業も開始

- 工場製品は堅調に推移するものの、環境関連新規事業一部延期、周辺事業（IH関連）減少などによりやや計画を下回る

- 継続的な工場製品への取組と、IH関連事業の本格的営業、さらには海外事業等の模索などにより目標のクリアを目論む

### 港湾事業

- 船団を保有し護岸整備工事、人工島の造成工事、防波堤の再建工事等あらゆる港湾工事に対応
- グループ会社として更なるシナジー効果に期待



- 小名浜港東工の整備事業の大規模工事が竣工

- 当期は小名浜東港湾整備事業の谷間にあたり中小規模の港湾・土木工事に注力

# 事業計画 | 生産性向上施策

## 施策

提案から施工まで**BIM**、**CIM**活用

ニューマ工事の**複数台ショベル自動掘削**

コンクリート部材の**プレキャスト化**推進

締固め不要な**高流動コンクリート**使用

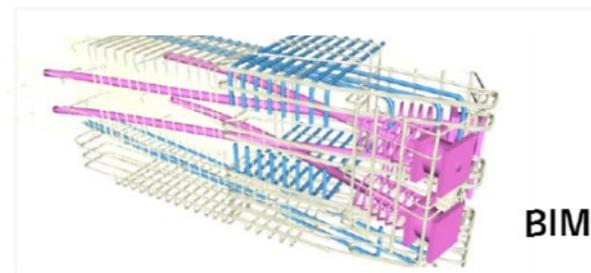
**ドローン**、**レーザー計測システム**の導入

**RPA**、**ICT**を駆使した業務効率化

**業革推進部**の現場支援

## 目標

生産性  
**10%UP**  
前中計期間  
実績対比



# 事業計画 | 生産性向上施策・進捗

## 進 捗

BIM/CIM推進WGを発足、6現場を重点現場に

京都府吞龍ポンプ場で複数台ショベル自動運転試行

土木、建築でコンクリート55,500m<sup>3</sup>をプレキャスト化

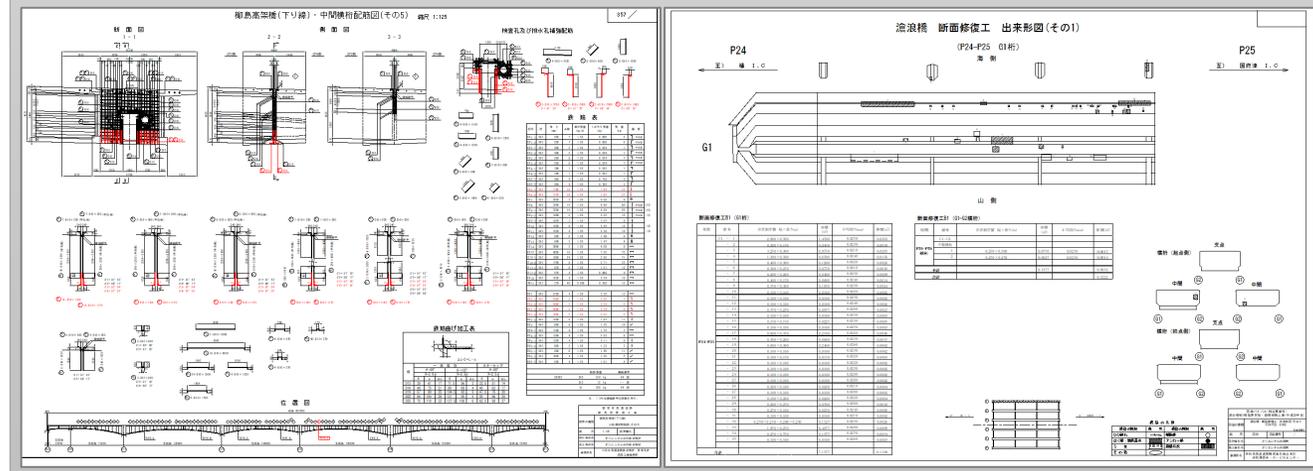
関東工場では桁製作に中流動コンクリート使用

河津IC橋他8橋でドローンによるレーザー計測を実施

RPAやOCRにより、360人工の省人化を実現

高速道路や国交省、県工事など41工事で支援実施

## 業革現場支援 作図例



## 成 果 (21.3期-22.3期)

生産性

10.3%UP

前中計期間  
実績対比

- 少子高齢化や担い手確保のためにも  
工事現場における週休2日などの働き方改革が重要
- 2024年4月建設業においても時間外労働の上限規制適用



売上を維持するには生産性向上が必須



## 構造計画 | 進捗

### 働き方改革による、 魅力ある職場を目指すための取組

- 完全週休2日に向けモデル現場で4週8閉所推進
- 社員のライフイベントに合わせた育児関連等規定や 高齢者継続雇用の基準見直し処遇改善を実施
- 感染症予防のみならず、「ワークライフバランスの実現」、「出産・育児・介護と仕事の両立」、「多様な働き方による就業機会の拡大」等への取り組みを目的としてテレワーク運用規程を制定、運用面での手引きとなるガイドラインも改訂し、多様な働き方、管理方法を推進

### BCP

- リスク管理委員会を年2回開催し、グループ各社の重点リスク対応策の進捗をモニタリングし、リスクコントロールを実施
- サイバーセキュリティ対策として、働き方の多様化を踏まえたエンドポイントセキュリティの強化やマネージド・セキュリティ・サービスを導入

### 人材戦略

- 大学との共同研究やインターンシップを通じた事業PRと多様なアプローチで採用活動を推進
- 協力会を通じて建設キャリアアップシステムを推進
- つくば機材センターにニューマ研修施設を建設
- 建設業の魅力インターネット動画やSNS等を活用し、幅広い情報発信を通じて当社グループや協力会社の人材確保を支援するプラットフォーム事業を立上げ

### ガバナンス

- 2021年4月1日よりテクニカル上場。グループ再編に伴い、オリエンタル白石が親会社として監査等委員会設置会社へ移行し、取締役会の監査・監督機能を強化
- サステナビリティ関連ではコーポレートガバナンスコードの改訂を踏まえ、基本方針を策定の上、マテリアリティを開示、サステナビリティ委員会を新設し対策のモニタリング体制を整備

## 投資計画 | 進捗

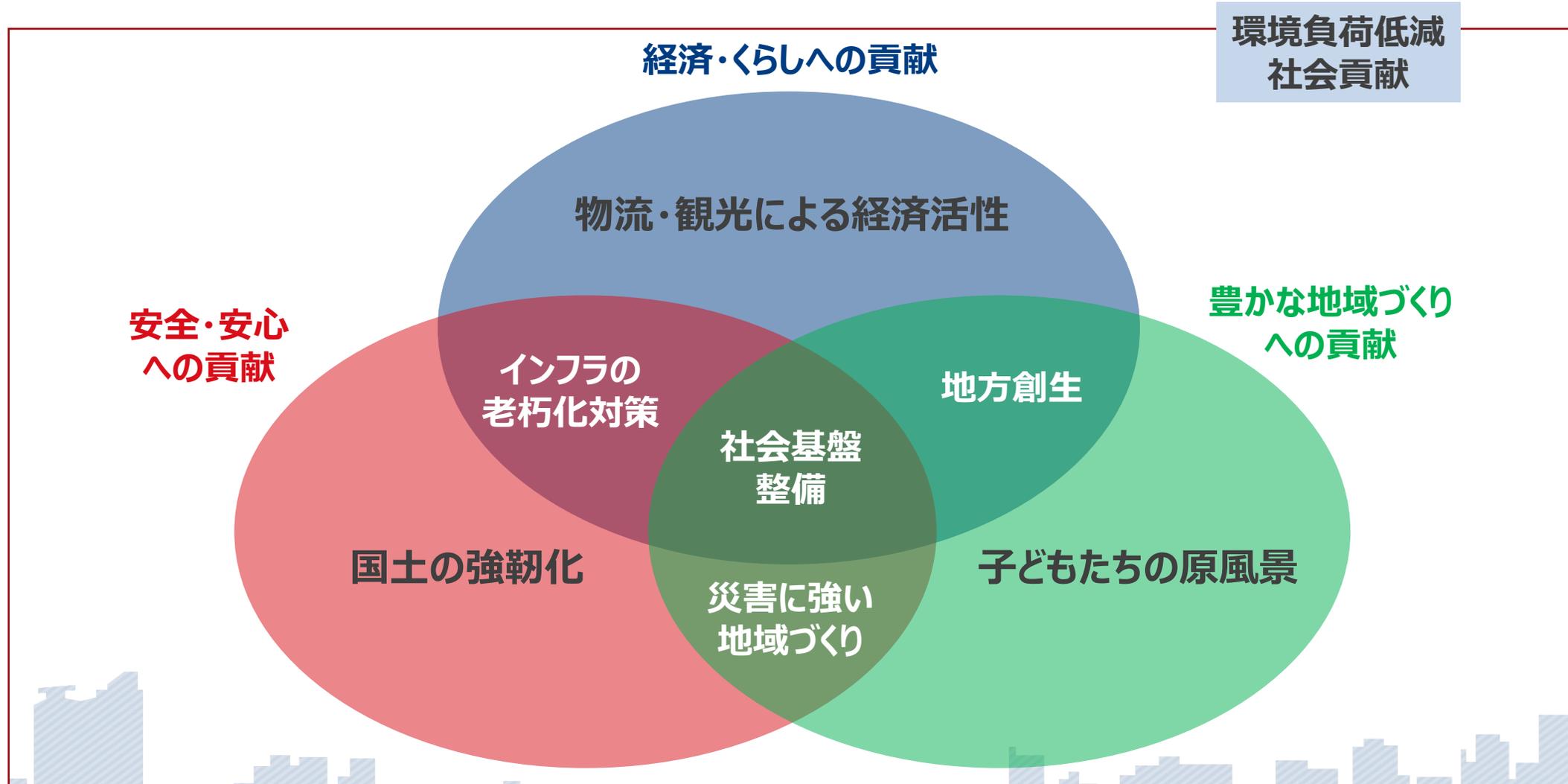
### ■ 設備投資・研究開発投資により、競争力向上・安定収益を目指す

項目	投資額（5ヶ年）		進 捗（金額）	
生産能力向上 （設備投資）	工場、機材センターの機能増強 ニューマ機械増設と仕様増強 IoT、AI、ロボット投資	70億円	ニューマ機械増設と仕様増強 工場等遠隔管理設備 等	25億円
生産体制強化 （M&A 外注等）	地域建設会社、周辺事業会社のM&A 現場支援機能の外注 人材育成・教育投資	40億円	山木工業M&A ニューマ研修施設 等	38億円
研究開発 （技術提携等）	技術研究開発 産官学との共同研究 異業種との共同開発	30億円	大学等との共同研究含む 技術研究開発	10億円
その他 （新規事業）	海外事業（共同工場・現地企業買収） 国内事業（循環型植物工場、周辺事業）	30億円	人材確保支援事業	着手
不動産	賃貸不動産物件等	30億円	都心の賃貸オフィスビル	25億円
5ヶ年投資額合計	200億円		約100億円	

ニューマチックケーソン大型工事への対応、工場の更新・機能強化、浚渫船の更新、カーボンニュートラルへの対応、当社の強みを増すための研究開発、協力会社を含めた人材の確保、当社とシナジーを生むM&Aなどへの投資を継続

## SDGs への取り組み

- 「誰も置き去りにしない」「弱者をつくらない」ためのオリエンタル白石グループのSDGs



# SDGs への取り組み

## SDGsの達成に向けて「わがグループらしさ」をもって貢献

■ 治水施設建設や耐震補強工事による「災害に強い強靱な国土インフラ構築」



■ インフラ整備を通じた経済活性、地方創生、住民の豊かな暮らしの実現



■ 補修補強工事による老朽インフラの延命化ならびにサステナブル社会への貢献



■ 製鉄所や火力発電の産業廃棄物利用によるCO2削減



■ プレキャストの採用拡大による森林伐採削減およびCO2削減



■ 太陽光発電事業の継続



■ 循環型植物工場などの環境事業



■ グループが造る橋梁が、地域に育つ子どもたちの「故郷を思う原風景」に



■ CO2削減を可能とするコンクリートの実用化に向けて研究開発



■ サステナブル委員会によるCO2削減施策の検討・実施・モニタリング



## 総括

### 中期経営計画2020-2022の見通し



代表取締役社長 大野達也

中期経営計画の2年目となる2022年3月期では、新設橋梁、補修補強、ニューマチックケーソンの主要事業で一定の業績を上げたことに加え、新たに山木工業をグループに加えたことで、オリエンタル白石グループの前身であるOSJBホールディングスが発足して以来の8年間で最高の経常利益を残すことができました。

今年度は、中期経営計画の最終年度となりますが、連結業績予想（売上高650億円、経常利益50億円、当期純利益33億）を確実に上回るとともに、次期中期経営計画に向けて、高い利益が期待できる受注残を多く積み上げていくことを目指します。

コロナウイルスの未だに高い感染状況や、材料・燃料費の高騰、少子高齢化における生産体制の確保など、問題が山積しておりますが、グループ各社とも現在求められているインフラ整備や国土強靱化で活躍できる強みと実績を有しており、先述した問題に対応しながら、さらなるグループの成長に繋げていく所存です。

